

# 令和3年度 宮崎県教育研究連合会 第3回本部役員会

日時：令和3年6月26日（土） 17:00～18:30

場所：校長会館2F会議室

## 会次第

### 1 はじめのことば

### 2 会長あいさつ

### 3 令和3年度 7月以降の事業について

- 第2回スクールマネージメント研 7月31日
- 教員採用模試(2次) 8月初旬
- 宮教研連のつどい 8月28日
- デジタルアーカイブ

### 4 組織対策会議について

- 会費について
- 組織対策会議に向けて

### 5 みやざき教育文化研究会の設立

- 設立と運用について

### 6 全日教連関係

- 第38回教育研究全国大会(香川大会)について
  - ・ 開催中止→希望する提案者の資料をホームページに公開する。
  - ・ 助言者ゼミナールについては、可能であれば、Web配信、全日教連新聞への掲載を行う。
  - ・ 記念講演は、Web配信を行う。
- 九州ブロック会議(宮崎)は中止する。(次年度へ延期する)
- 次年度以降の教研大会の順番  
R4栃木→ R5宮崎 → R6山口 → R7徳島 →
- 次期リーダー研修は中止する。
- 教育シンポジウム(兵庫)は、中止する。(次年度へ延期する)
  - ・ 教育シンポジウムの代替として 教育ウェビナーを2回実施する。  
(シンポジウム形式、講演会形式)

※これからの全国の研修会では、ワクチンが重症化を防ぐことを目的とすれば、会に参加するときのPCR検査を行うことや研修会するときに医者にご相談の上でいただいたチェックリストの活用をすること等の意見が出されていた。

### 7 会長から

1 現状

- 大量退職期になり、若手教師が採用されやすい時期である

2 事業内容

- 講師・学生を対象とした教員採用試験と同様な臨場感や緊張感、実力試しができる模擬試験を実施し、宮崎県の教育向上に寄与する。
- 令和3年度から試験的に、模試受験者から希望を募り、二次対策にも取り組む。二次対策として実施する面接内容は、**別紙1**に実施する。

3 模試

- 5月22日 13名在宅受験

4 二次面接（試験的取組）

- 受験者から希望者のみ二次面接等対策 **様式1**

(1) 希望募集調査日 7月 9日発送 →7月20日〆切

(2) 二次対策日時・場所発送日 7月26日

(3) 二次面接対策日 8月 1日（日）

- ・場所：校長会会館 1階：面接会場、2階：控え室
- ・時間：9：00～16：00（12～13時休憩）
- ・面接接官：4名程度（みやざき教育文化研究会メンバーより選出）
- ・タイムキーパー：星原
- ・面接説明：興梧
- ・受付：緒方
- ・感染対策：秋岡
- ・LINE・QR アンケート：榊木

(4) 面接内容・採点基準・タイムスケジュール

- ・面接内容：安治川・浜渦（日向支会：今年度初期研修者）
- ・面接官手持ち質問項目（10問）・採点基準準備：興梧・榊木
- ・面接タイムスケジュール

0		15		45		60分	
入	面	退	面 接 フィールドバック		退	面接者入替 消 毒	
室	接	室			室		

面接者は、入室時刻5分前に入館し消毒（自家用車の場合は校長会館駐車場に待機可）

# 令和3年度 第7回「宮教研連のつどい」実施計画(案)

令和3年6月26日

## 1 趣旨

- (1) 創設以来半世紀以上の歴史を踏まえ、新たな気持ちで会員の所属意識並びに会員としての自覚と誇りを一層深める。
- (2) 会員各位が教育専門職であることの誇りと自覚をもつとともに、宮教研連会員であることの所属意識を高める場とし、研修を通じて本県教育の充実と発展に寄与する。
- (3) 研修を通して、日々の教育実践に生かせる情報を得ることで、教師としての資質向上に資する一助とする。
- (4) 全県の会員で研修を行うことにより、本部と各支会及び各支会間の連携強化と会員相互の連帯を深める機会とする。

2 主催 宮崎県教育研究連合会／宮崎県教育研究連合会宮崎支会

3 後援 宮崎県教育委員会

(予定) 全日本教職員連盟

宮崎縣市町村教育委員会連合会

宮崎県PTA連合会

4 協賛 公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮崎県支部

(予定) 日本教育文化研究所

5 テーマ 「学校教育の現状と課題」～「令和の日本型学校教育」答申とGIGAスクール構想を踏まえて～

6 期日 令和3年8月28日(土)

7 会場 オンライン開催 主会場：宮崎グリーンホテル

## 8 日程

12:30		13:00		13:20		14:00		16:30	
		13:15				14:15		16:15	
	受付	開会行事		研究発表		記念講演 講師：辻村哲夫氏 演題「学校教育の現状と課題」 ～「令和の日本型学校教育」答申と GIGAスクール構想を踏まえて～		閉会行事	

12:30～13:00 受付

13:00～13:15 開会行事

開会の言葉

あいさつ

祝辞

13:20～14:00 研究発表

発表(20分)

質疑・協議(20分)

14:15～16:15 記念講演

講師紹介

講演・質疑

謝辞

16:15～16:30 閉会行事

閉会の言葉

諸連絡

講師 辻村 哲夫 氏

公益財団法人 学習情報研究センター  
理事長 <https://gakujoken.or.jp/>

元文部官僚、文部科学省初等中等教育局  
長、東京国立近代美術館館長、独立行政法  
人国立美術館理事長を歴任

【著書】『もう一度考えたい

「ゆとり教育」の意義』

(共著) 悠光堂／

『改訂中学校学習指導要領  
の展開総則編』等



9 役割分担

係	業務	担当者	備考
総務・渉外	全体計画	花宮・横山・大脇・鶴久	祝辞依頼：花宮
企画	講師・研究員打合せ、進行台本	大脇・増岡	
会場	連絡調整	鶴久・坂元・雨崎	
広報	チラシ、広報	安治川・星原・秋岡	
ICT	機器準備、テスト	横山・興梠・谷口・西脇	
会計	予算管理	梶木	

10 運営計画（在宅開催を想定）

(1) 当日の役割分担【会場：校長会館】

係	業務	担当者
会場準備	会場設営図	大脇・増岡
機器準備	本部、講師、全日教連、県教委との Zoom 接続確認	坂元
全体進行	進行表	大脇
研究発表進行	研究発表、質疑・協議時の進行	増岡
コロナ対策	消毒、換気	鶴久
来賓・講師	講師、全日教連、県教委への Zoom 接続連絡	花宮・横山・大脇

※定員を 100 名とする。これ以上の申込みがあった場合は、録画したものを後日配信する。

(2) 当日の流れ

10:30～	役員打合せ	
10:40～	会場設営 (5会場)	机、椅子、スクリーン、プロジェクタ、PC 等 演題、国旗、宮教研連旗 等
11:30～	講演打合せ	研究員、講師との最終打合せ
12:00～	接続テスト	校長会館内での Zoom 接続テスト
12:30～	Zoom 接続	参加者確認
13:00～	開会行事	開会の言葉、あいさつ、祝辞
13:20～	研究発表	発表 20 分、質疑・協議 20 分
14:00～	会場設営	記念講演に向けた会場設営
14:15～	記念講演	講師紹介、講演・質疑、謝辞
16:15～	閉会行事	閉会の言葉、諸連絡
16:30～	片付け	会場の片付け

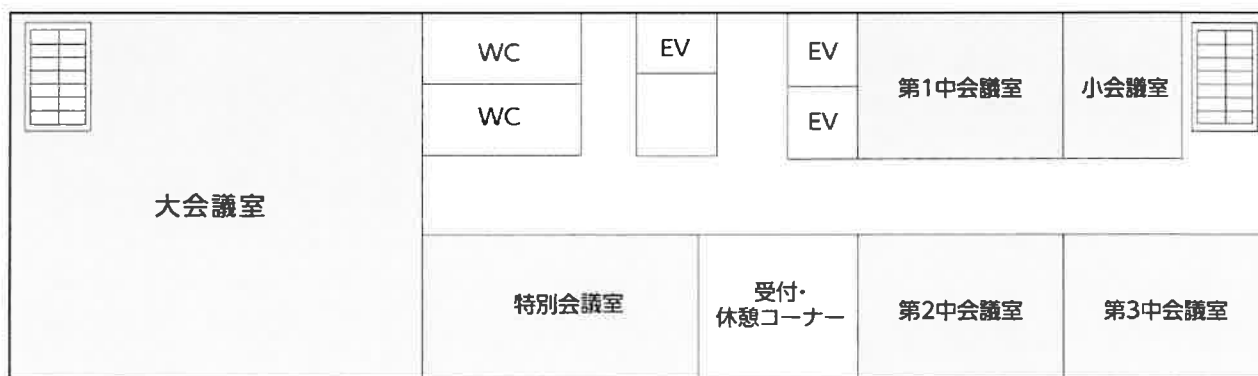
(3) 来賓等対応

来賓等		到着予定	控室	接待・対応	備考
講師	辻村哲夫氏		ご自宅		
研究員	吉井教諭、緒方教諭 福島教諭、馬原教諭		宮崎グリーンホテル	増岡	
来賓	全日教連 ○○○○		全日教連事務局		
来賓	県教委 ○○○○		ご自宅/グリーンホテル	花宮	

## 1.1 当日までの日程

4月中	・講師の決定、依頼	
5月中	・県本部役員会における計画案の検討 ・支会長・理事長会における提案、決定 ・講師への依頼文書発送 ・後援申請（県教委、全日教連、 県市町村教委連合会、県PTA連合会）	書面、Zoom会議
6月	・広報開始、参加者申込み開始	広報：チラシ配布&Web、メール等 申込み：Web
6月～7月	・講師との打合せ ・研究員との打合せ	内容、進行等の打合せ
8月5日(木)	・申込み締切	定員に達し次第、申込み終了
8月6日(金)～	・申込者との連絡先メール確認	申込者へテストメールを送信し、 受信確認を行う。
8月7日(土)	・接続テスト用ID・パスワードの送信	本番と同じIDを使用
8月8日(日)	・Zoom接続テスト(13:00～14:00)	本番と同じIDを使用
8月21日(土)	・講師との最終打合せ	内容、進行等の最終打合せ
8月27日(金)	・ID・パスワードの最終送信	
8月28日(土)	・当日	

## 1.2 会場



### ※ 会場利用計画

内容	会議室	収容人数	想定人数	時間	備考
全体会	大会議室	講演会形式 90名	70名	12:00～17:00	PC、PJ、SCR、マイク
研究発表 A	大会議室	スクール形式 74名	20名	13:20～14:00	
研究発表 B	特別会議室	スクール形式 30名	20名	13:20～14:00	PC、PJ、SCR
研究発表 C	第1会議室	スクール形式 18名	15名	13:20～14:00	PC、PJ、SCR
研究発表 D	第3会議室	会議形式 18名	15名	13:20～14:00	PC、PJ、SCR
事務局	小会議室	会議形式 6名		12:00～17:00	PC (Zoomメインホスト)

※ Zoomによるオンライン参加 30名 総計 100名

※ PC: パソコン、PJ: プロジェクタ、SCR: スクリーン (PJ と SCR は会場の物を使用?。無料。)

# 令和3年度 宮崎県教育研究連合会のつどい 当日の大まかな流れ

8月28日(土) 宮崎グリーンホテル

時刻	会場	会場1	会場2	会場3	会場4	会場5
		研究発表会場1 担当:	研究発表会場2 担当:	研究発表会場3 担当:	研究発表会場4 担当:	本部 担当:
10:30						役員打合せ
10:40		会場設営	会場設営	会場設営	会場設営	会場設営
11:30		発表打合せ 吉井教諭	発表打合せ 緒方教諭	発表打合せ 福島教諭	発表打合せ 馬原教諭	講演会打合せ 辻村様
12:00		接続テスト	接続テスト	接続テスト	接続テスト	接続テスト
12:30						Zoom 接続 参加者確認
13:00						開会行事
13:20		研究発表 発表 20分 質疑・協議 20分	研究発表 発表 20分 質疑・協議 20分	研究発表 発表 20分 質疑・協議 20分	研究発表 発表 20分 質疑・協議 20分	研究発表 進行
14:00						講演会準備
14:15						記念講演
16:15						閉会行事
16:30		片付け	片付け	片付け	片付け	片付け
16:50						最終確認
17:00						解散

## 【準備物】

会場1～4 机、椅子、スクリーン、プロジェクタ、PC 等

会場5 机、椅子、スクリーン、プロジェクタ、PC 演題、国旗、宮教研連旗 等

# 令和3年度 宮教研連のつどい 詳細計画(案)

令和3年6月26日

大脇

## 1 役割分担

No.	役割	役割の詳細	担当者
1	総務・渉外	全体計画作成	大脇・鶴久・横山
		来賓依頼（全日教連、県教委）	花宮・梶木
		来賓対応（全日教連、県教委）	花宮・横山
		祝辞依頼	花宮・横山
		事前質問集約	
		参加者集約、名簿作成	
		参加者へ受信確認メール配信（ID、パスワードの連絡）	
		後援申請（全日教連、県教委等）	梶木・大脇
		報告書作成、発送	大脇
2	企画	講師との連絡 （講師依頼、打合せ、録画配信承諾、事前質問内容送信 等）	大脇・梶木・花宮
		研究員との打合せ	増岡
		当日の全体進行、進行表作成	大脇
		当日の研究発表進行、進行表作成	増岡
3	会場	会場設営（5会場）	全員
		感染症対策（消毒液、体温計等）	鶴久
4	広報	チラシ配付	安治川・星原・秋岡
5	ICT	PC、プロジェクタ、スクリーン等確認	横山・興梠・坂元 谷口・西脇
6	会計	補助金関係、講師謝礼等	梶木

## 令和3年度デジタルアーカイブ事業について

養成期・能力育成期チーム

### 1 現状

- 宮崎県は、大量退職期になり、多くの若手教師が学校現場に採用されている。
- 退職後も再任用をはじめ、先輩教師が現場におられるが任期に限りがある。

### 2 目的

- 大幅な世代交代の時期に差し掛かり、宮教研連でOJT・OFF-JTを意図的・計画的に機能させたい。
- 先輩教師たちの指導技術や研究内容など宮崎県の教育財産を次世代の教師へ伝えたい。

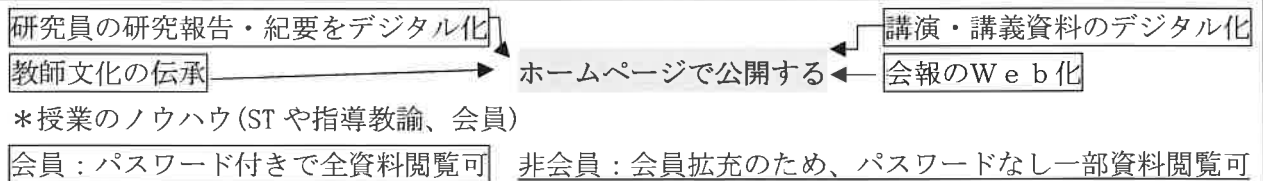
### 3 事業内容

- 教師力向上セミナーをはじめ、いままでの研修でご指導いただいた学級経営や授業づくり、教育論等に係る研修動画を宮教研 HP で公開し、いつでも活用できるようにする。
- 宮教研連研究員制度に基づく研究内容等を HP 上で公開し、宮崎県の教育向上に寄与する。

### 4 デジタルアーカイブ各種内容

- 来住裕子先生による学級経営・授業づくりの動画 秋岡先生（雨崎先生）  
→既に第一弾はアップ中 第2弾を録画アップの準備
- 窪田雅文先生（現教頭）による理科授業の動画（案）興枘、秋岡先生  
→榊木事務局長経由で依頼
- 宇戸田指導教諭による道徳授業づくり動画（案）  
→興枘、星原先生から依頼
- 小・中学校単元ごとの授業教材リスト 興枘、安治川先生  
→休会員（宮崎市教委堀指導主事、中部教育事務所津曲指導主事）教材、来住先生教材、
- 研究員研究紀要 PDF 興枘、秋岡先生 → 許可確認文書配付
- 会員自前実践・研究論文等 PDF 興枘、秋岡先生
- 会報・会誌 PDF 安治川、星原先生

### 5 デジタルアーカイブイメージ図



#### 講演会・研修会内容のアップロードの手順について

各会担当が、事前の講師との打合せ時にアップロードについても許可を得て、アップロード前にデータの講師に確認をしていただき、アップロードする。

#### 教材リストのアップロードの手順について

担当が、教材作成者と単元ごとの教材・板書・ワークシートの有無を打合せ、作成したリスト一覧をアップロードする。

#### 会員自前実践・論文のアップロードの手順について

担当から会員へ呼びかけ、アップロード希望会員がいた場合は、HPに会員の部屋として開設し、著作権等留意し、実践事例(氏名記載は選択制)としてアップロードする。



## 第1回 本部役員による組織対策会計画

令和3年6月26日

本部 興梠

### 1 日時

- 令和 3年 6月26日土曜日 17:00~18:00

### 2 場所

- 県教育研修センター（または、校長会館にて zoom）

### 3 出会者

- 本部役員

### 4 役割

- 総括:本部会長
- 進行:理事長
- 提案:副理事長(養成期・能力育成期担当リーダー)
- 出席確認・資料準備:事務局長

### 5 内容

- 会費体制案を話し合う。（別紙）
- 令和 3年 8月27日に「第1回組織対策会議」を追加計画する。
- 令和 3年10月16日理事長会を「臨時支会長・理事長会」に変更し、議決する。  
\* 9時~10時 理事長会 10時30分~12時 支会長・理事長会
- 各支会の会費金額や割引特典等の事前調査について（本部理事長→支会理事長）

### 6 次回:第2回本部役員による組織対策会

- 令和 3年 7月31日土曜日 11:00~12:00 校長会館(または、zoom)

1 現在の状況

- ① 教諭の新規加入者がほとんどなく、会員数が減少し県内公立学校の管理職数になりつつある。
- ② 教諭会員数減少に伴い、各支会では役職選定に苦慮している。
- ③ 教諭を対象とした本会主催の研修を実施しても、教諭の会員数が少ないため、会員ではない教諭や講師の参加者が多く、会員のための会費運用とは言い難い。

2 対策委員会の目的

- 入会しやすい会費体制の見直しをする。

3 計画

- ① 令和 4年 4月より 新しい会費体制実施  
↑
- ② 令和 4年 1～4月 新会費に係る全会員及び新規加入会員の教職経験年数調査  
↑
- ③ 令和 3年11月～ 4年 3月 新会費体制に係る会員獲得のための周知期間  
↑
- ④ 令和 3年10月16日 AM「臨時支会長・理事長会 議案決議」(対面・リモート)  
↑ ・新会費体制案を議決する。
- ⑤ 令和 3年 8月27日 AM「第1回組織対策会議」(対面)  
↑ ・令和4年度以降の会費体制案について提案する。
- ⑥ 令和 3年 7月31日 AM「第2回本部役員組織対策会」  
↑ ・本部役員で6月を受けて、第1回組織対策委員会の議案を確認する。
- ⑦ 令和 3年 6月26日 PM「第1回本部役員組織対策会」  
・本部役員で会費体制案を話し合う。

4 各会の構成メンバー

- 本部役員組織対策会  
\*対象：本部役員
- 組織対策会議  
\*対象：支会長・理事長、本体会長・理事長・副理事長・事務局長

## I 宮崎県教育研究連合会の課題

- 1 教諭の新規加入者がほとんどない。
- 2 会員数が減少し、県内小中学校の管理職数になりつつある。
- 3 各支会は、教諭会員数減少で、役職に就くことができる教諭数が少なく苦慮している。
- 4 教諭の会員数が少ないため、教諭を対象とした研修を実施しても、会員ではない参加する数が多く、会費（20,000円）を会員のために活用しているとは言い難い。

## II 宮崎県の教職員の状況

- 1 大量退職の世代に入り、若手教職員が多く採用されている。
- 2 大規模校では3名程度の初期研修者が配置されている。
- 3 再任用もあるが、本県教育の質を維持するために若手教職員へのOJT・OFF-JTが不可欠である。

## III 会員獲得の状況

- 1 会員獲得は1番の課題とされてきた。
- 2 近年、会員加入初期の会費の減額について取り組んできた。
- 3 最終的に会費（20000円：支会によって若干違いあり）がネックとなり、各校世話役が若手に声を掛けにくい。
- 4 令和2年度の会員の内訳数

職名	全県		宮崎		南那珂		都北		西諸		西都・児湯		日向		延岡		西臼杵	
校長	322	38.7%	81	34.9%	31	40.8%	61	39.1%	35	39.8%	31	44.9%	33	37.5%	34	40.5%	16	41.0%
副校長	1												1					
教頭	302	38.2%	81	34.9%	31	40.8%	57	36.5%	34	38.6%	26	46.4%	27	42.0%	31	36.9%	15	38.5%
教頭:小	8										3		5					
教頭:中	7										3		4					
主幹教諭	35		15				7		3		4		3		2		1	
指導教諭	9		4						1				2		1		1	
教諭	144	23.0%	49	29.7%	14	18.4%	30	24.4%	15	21.6%	2	8.7%	13	20.5%	15	22.6%	6	20.5%
講師	3		1				1								1			
主任主事	1	0.1%	1	0.4%														
計	832		232		76		156		88		69		88		84		39	

## IV 今後の展開

- 1 宮崎県は若手教職員が増える傾向にあり、宮崎県教育研究連合会が研修団体として「OFF-JT」の役割を發揮できる状況にある。
- 2 宮崎県の研修団体としての役割を維持するために、宮崎県教育委員会が示している教職員の指標を参考に教職経験ステージに沿った大幅な会費の見直しをする。ただし、本部は各支会の連合会の調整役であるため、新会費体制作案については各支会の同意が必要である。

## VI 教職ステージにおける会員活動のポイントと会費の関係

ステージ	養成期	能力育成期	能力拡充期	能力発揮期	
職・教職年数	講師	1～5年	6～11年	12年～ 管理職	
県への負担金	1,000円		8,400円		16,800円
支会費と 合計の例	500円 → 1,500円		600円 → 9,000円		1,200円 → 18,000円
	1,000円 → 2,000円		1,600円 → 10,000円		3,200円 → 20,000円
	2,000円 → 3,000円		2,600円 → 11,000円		5,200円 → 22,000円
会員活動の ポイント	教師力向上セミナーや研究員、教員採用模試等、積極的に研修に参加し、指導技術の向上を図る。		支会役職に就き、運営・企画力やマネジメント能力を身に付ける。		管理職研修や若手会員のための研修の支援、校内・支会内でのOJTやOFF-JTの日常化を図る。

**養成期・能力育成期**

経験 5 年目以内または、講師会員教職員は、会費抑えめで多くの研修参加し、デジタルアーカイブ内に収められてる研修会映像も活用しながら養成期・能力育成期として資質向上を目的とする。

**能力拡充期**

教職 6 年目から 11 年目、つまり 10 年経過研までの教職員については資質向上を図り、さらに、支会の研修企画や運営等のマネージメントについても経験を積むことを目的とする。例えば、支部の理事長や研修部長等の役職を担い、他校の会員との関わりの中で OFF-JT を図り、調整力を身に付けることも期待したい。また、役員として、全国や県外への研修の機会に参加し、交流の輪や見聞を広げ、資質向上を図り、会費の運営方法についても学ぶ機会とする。

**能力発揮期**

教職 12 年目以上の会員は、学校マネジメント研修を軸に、自校や支会内の若手・ミドルの教諭に教師力向上研修や研究員、支会運営の役職に声掛けをして、OJT や OFF-JT の日常化を図る。

年間 20,000 円の会費によって支えられている全日本教職員連盟の活動や、その働きにより我が国の教職員の待遇改善、学校の改善、教職員の定数改善に直結していることを実感しつつ、自校の充実を図る

会費内訳	例 20000 円
全日教連納金およそ 60%	11760 円
～ 会費による活動内容 ～	
☆財務省・文科省等への要望活動例 ○教員の基礎定数・加配定数の拡充 ○教材費等の費用も義務教育費国庫負担に含めること ○教職調整額や諸手当等の優遇部分の拡充を図ること ○教員の持ち帰り業務について ○次期学習指導要領の改訂に向けて、時数の削減 ○管理職手当の改善 ○30 人学級定員 ○高等学校スクールサポートスタッフ配置予算 ☆日本教師中華民国訪問研修 ☆定期大会 ☆教育研究全国大会 ☆次期リーダー研修 ☆日本教育文化研究所 ☆教育ウェビナー ☆教育新聞	
宮教研連本部納金およそ 25%	5040 円
～ 会費による活動内容 ～	
○教師力向上セミナー ○スクールのマネージメント研修 ○研究員制度 ○会報・会誌 ○宮教研連のつどい講演会 ○デジタルアーカイブ ○代表委員会 ○教員採用模試 ○みやざき教育文化研究会 ○zoom アカウント貸出	
支会納金およそ 15%	3200 円
～ 会費による活動内容 ～	
○支会総会 ○研究発表会 ○ブラッシュアップ研修 ○法規研修 ○署名活動 ○講演会 ○サークル活動	

そもそも宮教研連は各支会の連合体であり、各支会の研修活動がメインで、県本部は全県に関わる研修だけを担当してきた。ところが、ここ 10 年ぐらい前から、支会が弱体化する中で、止むを得ず、県が本来支会でやるべき研修を実施するようになってきた。しかしながら、このことが、更に支会の弱体化に拍車をかけているのかもしれないと懸念している。各支会の教諭数を増やし、熱意と活発さ溢れる、今後 10 年後の宮教研連をめざしたい。

# 「みやぎき教育文化研究会」発足について

## 1 趣旨

宮崎県教育研究連合会（以下「宮教研連」と略す）は、昭和44年2月に、当時、混迷を深めていた本県教育の現状を憂い、教育の正常化の実現を目指す同志の団体による、大同団結として発足しました。以来、50年以上に亘り、本県教育の正常化と教育水準の向上に貢献するため、様々な事業を展開してきたところです。

ここ昨今は、教職員の減少や教員の組織離れの傾向が顕著となり、会員数は減少傾向にありますが、自らの資質向上に努め、本県教育の充実と発展に寄与するとの熱い思いをもち、熱心に活動している会員も少なくない状況です。

一方で、大量退職に伴い、これまで長年に亘り培ってこられたベテランの先生方の有形・無形の教育に係る知見やノウハウが一気に失われることが危惧されます。

そこで、ご退職の先生方の知見やノウハウを、後進のために生かし、宮教研連の研修活動等を後方から支援したいと考え、ボランティア組織を立ち上げたいと思っております。

併せて、大学関係者などの有識者にも、本組織に加わって頂き、ご支援を仰ぎたいと考えております。

## 2 概要

○ 名 称 『みやぎき教育文化研究会』

○ 活動内容 宮教研連事業を支援するため、以下の活動を行う。参加は任意。

A 宮教研連の県本部・支会の主催研修会等の講師・指導者・助言者等

B 宮教研連の会員等の研修・研究への支援（研究へのアドバイス等）

C 宮教研連の県本部・支会の主催事業等への人的支援（受付・案内・裏方、事務的業務等）

○ 会 費 なし（運営に必要な経費は宮教研連が負担する。）

○ ボランティア参加までの流れ（ボランティア参加は任意です。）

(1) ボランティア募集（A・Bの場合は個別に、Cの場合は一斉に、メールで発信）

(2) 参加の意思表示

(3) 事前連絡（メール等）

(4) ボランティア参加

○ その他

・ ボランティア活動に係る保障等はありません。活動する者の自己責任での活動となります。

・ 宮教研連賛助会員として加入・継続された方は、自動的に全日教連共済会に加入することになるため、訴訟費用保険等の加入資格がある。

\*賛助会員会費：初回3000円のみ 詳細については（楯木）まで

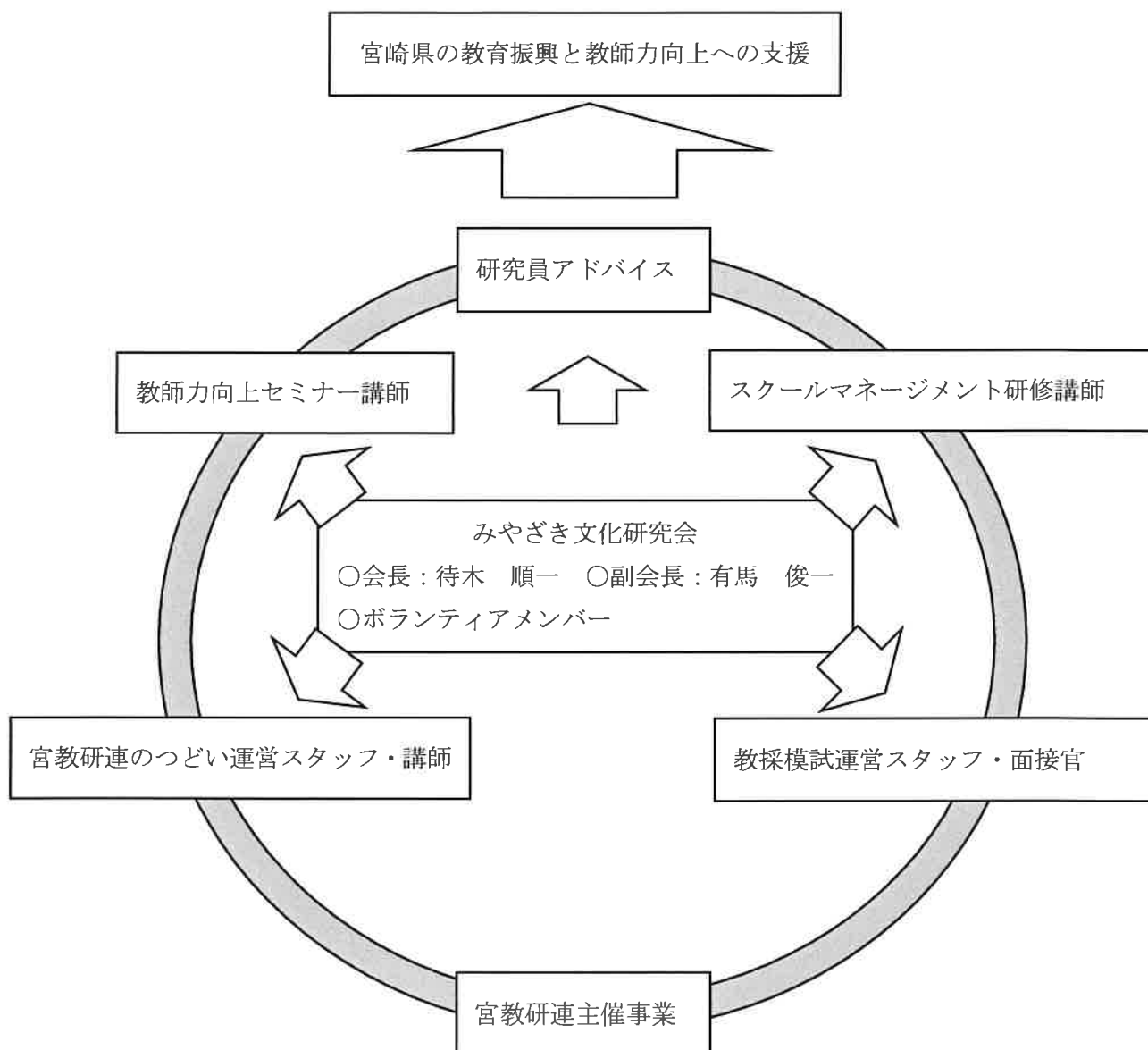
お問合せ先 楯木・興梧

TEL&FAX：0985-27-4508

携帯：070-5416-0833

Mail:miyakyoukenren@royal.ocn.ne.jp

## みやざき教育文化研究会活動のイメージ図



### みやざき文化研究会

- 宮崎県の教育振興と教師力向上を支援する。
- ボランティアメンバー(宮教研連退会会員・賛助会員含む)で組織する。
- 会費徴収しない。
- 事業支援に係る本会の経費支出ではない。(※事業経費は、宮教研連事業内容で計画)
- 連絡調整は、事務局(榊木・興梠)が宮教研連とする。
- 本会メンバー紹介(宮教研連 HP にリンク)をする。